

Kurilon Workshop News

クリロンワークショップ便り
No.23 2017年2月

No.
23



お！画空間デザインの
カレンダーが受賞だって・・・
第68回全国カレンダー展
全国中小企業団体中央会会長賞受賞か



蔡國華コレクション展

My Favourite ～あなたと私の蔡國華作品展～



2016年12月、画空間ギャラリーにて「My Favourite～あなたと私の蔡國華作品展～」が開催されました。これまで画空間では蔡さんの新しい作品を展示してきましたが、所蔵者の方々の発案がきっかけとなり、今回のような過去のコレクションスタイルの催しが初めて実現しました。

えられており、ひとつひとつの絵画が物語をもつて、より魅力的に見えてきます。13人の所蔵者の一番のお気に入りや並んだ展示会場では、たくさんの方が和やかに語り、作品と人、また人と人の縁を生み出す作品の力が感じられました。

好評のうちに終了することができた初のコレクション展。次回はどのような作品が集まるのか楽しみです。



画空間 小川 あきこ



▲絵本

2016年12月、画空間代表栗原明理による初の絵本『つづきをおねむりもういちど』が出版されました。

夢の中にいるようなやさしい淡い色づかいの絵と、こころよいリズムの文章でつづられた子ども達の読み聞かせにぴったりの絵本となっております。

また絵本原画展「meri Xmas 展」ゆめのつづき」も12月19日に開催されました。



▲マジックショー

展示会ではクリスマス用にデコレーションされた華やかな空間に絵本に描

かれた全12点の絵と文が添えられ多くの来場者が絵本を開きながら原画と見比べる様子が見られました。

オープニングパーティーでは昨年に引き続き袴田容氏によるチェロの演奏と、「軽井沢朗読館館長」青木裕子氏による絵本の朗読のコラボレーションが行われ、美しい物語の世界を作り出しました。

また今回画空間から出版した『ひらがなの教え方』の著者、下村昇氏のご子息である下村知行氏のマジックショーでは、練達の妙技で来場者の子供も大人も大興奮！楽しいクリスマスの一夜となりました。

画空間 豊島 愛



▲朗読とチェロ演奏

第12回HFF開催

軽井沢に爽やかな秋の訪れが感じられる9月中旬、12回目のヒューマン・フロンティア・フォーラム(HFF)が開催されました。例年通りに二泊三日にわたる「デイスカッションの集い」の参加者は約40名。

大学教授から経営者、音楽家、広告関係者など、多彩な顔ぶれで、4件の話題提供の場での論議はもとより、食事の場や夜を徹する語り合いなど、熱く活発な議論が続きました。

今年のテーマは人材育成。ベンチャー企業で急成長している「面白法人カヤック」の「つくる人を増やす」企業風土の作り方」に始まり、「人を育てる」ことはできない、「人が育つ条件」を整えることはできるから、「人を育てる場としての企業」へと進み、最終日には、中高一貫校を多数開設された第一人者を囲んで、「人が育つ学校マネジメント」を巡る活発な議論が交わされました。

HFFとは珍しい名前の集まりです。フォーラムとは、宿泊し会食し様々な場で議論をするという会議の形をそのように呼んでいます。

フロンティアとは、フォーラムに参加するメンバーが何らかの分野で時代の先端に



代表取締役 栗原 清一

立っていると、当人が自覚していることを意味します。他者の評価ではなく自己評価です。その分野が何であるかとか、フロンティアの大きさは問いません。新時代の芽はいきなり大きく芽吹くものではなく、何処に芽を出すかも分からないからです。ヒューマンとは、いかなる分野にも、フロンティアを切り拓く力の源となり、問題意識の要となるのは、本人の人としての思いであり、また、人間観だと思ふので、そこを基礎に置くことで、深い次元の思索や議論が可能となると考えているからです。

会議 拡大事務

拡大事務会議とは、当社の事務社員が一堂に集まり議論をしよう場です。

今年9月に福岡で開催された37名の事務社員が参加しました。参加者の積極的な姿勢や活発な議論内容、発表を見聞きしていると自分も頑張らなくては！とパワーを貰えます。

親睦を深めるために催す懇親会でも、久しぶりに会う先輩、後輩社員と話をしているとあっという間に時間が過ぎてしまいます。

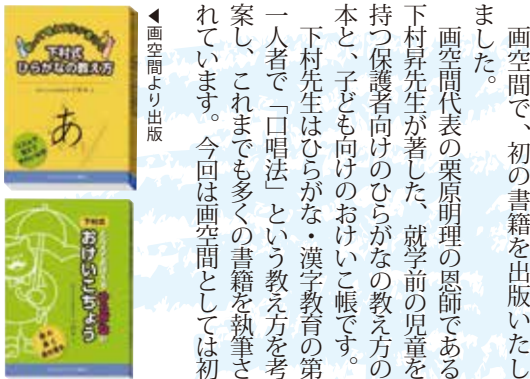


事務運営委員会 田川 紗弥加

全事務社員が集まることは、なかなか出来ませんが、全員が触れ合える貴重な時間を大切にしていきたいと思っております。

画空間より出版!!

歌って唱えて字が書ける 下村式『ひらがなの教え方』となっておぼえるひらがなの『おけいこちゃん』



画空間で、初の書籍を出版いたしました。画空間代表の栗原明理の恩師である下村昇先生が著した、就学前の児童を持つ保護者向けのひらがなの教え方の本と、子ども向けのおけいこ帳です。下村先生はひらがな・漢字教育の第一人者で「口唱法」という教え方を考案し、これまでも多くの書籍を執筆されています。今回は画空間としては初の出版となりました。

▲画空間より出版

画空間 近 ゆうみ

『ひらがなの教え方』の出版に寄せて

現代子どもと教育研究所 下村 昇

漢字や文字をテーマにした講演会の後でサインを頼まれたりしたときは、よく「文字は知識を広げ、知識は知恵を広げる」という言葉に添えて名前を書きます。

今般、画空間の寛大なお取り計らいで『ひらがなの教え方』と『おけいこちゃん』を出版させていただきました。場違いとも思いましたが、御社の常日頃の熱心な幅広い、社会的、文化的御活動の一助にでもなれば...という思いです。

「よい会社は人を育て、人を作る」ものですが、人は仕事の中で教わった専門知識ばかりでなく、その知識を自分の仕事にどう生かすか、どう貢献するのかが良いかと思えるものです。それがその人の知恵というものでしょう。



下村 昇 (プロフィール)

1933年3月1日生まれ 東京学芸大学卒業 現代子どもと教育研究所 所長 現代漢字成り立ち教育研究会 顧問 国語・漢字教育のほか 子供の教育全般にわたり活躍中 文字の指導における『口唱法』の創出者 『唱えて覚える漢字の本』(学年別)は 刊行以来500万部を突破 著書多数

おもてなし技能資格

当社には社員の職務能力向上及び技術や知識高度化のために社内資格制度を設けております。現在、開発・生産・応対・情報・設備・物流の6種類10の技能資格があります。資格によっては初級、中級、上級とランク分けされており、筆記試験、実技試験等を経て合格すれば資格給が毎月の給与に上乘せ支給されます。全ての資格に有効期間を設け、適格審査の実施で、厳しく再審査を行っております。

「おもてなし技能資格」は、2013年に新設されました。細やかな気配りができる人の育成を目的とし、社内外への対応能力の向上を図る資格です。受験には、秘書検定2級の取得が必須です。



一次試験は百以上の項目の応対・業務姿勢を自己評価、他者評価で審査します。二次試験では実技試験を通して実際の振舞いを審査します。合格者には金バッジが授与されます。金バッジは更なる向上を目指して、丁寧な応対態度や言葉遣いによって自分自身を高めていくことの印です。毎年多くの女性社員が挑戦し日々努力していますが、審査基準が高く、簡単には合格できません。審査する側もされる側も皆真剣です。ゴールの無い高みに向かって、これからも優しく温かくそして毅然とした対応力で社会に貢献する人材育成を目指していきます。

おもてなし審査委員 川島和恵

